

来週の市場とレート予想

	9/7(月)	9/8(火)	9/9(水)	9/10(木)	9/11(金)
無担保O/N	0.030% ~ 0.125%				
銀行券	+ 1,600	+ 1,000	ト ン	△ 1,000	△ 1,000
財政他	△ 7,500	ト ン	△ 1,000	△ 21,000	+ 3,000
資金需給	不 5,900	余 1,000	不 1,000	不 22,000	余 2,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)		交付税特会借入・償還	国庫短期証券発行・償還(6M) 10年物価連動国債償還	交付税特会借入・償還
オペ期日	共通担保(全店) △ 700 CP等買入 △ 200 国債補完供給 + 300	共通担保(全店) △ 7,200			共通担保(全店) △ 5,600
オペスタート	共通担保(全店) + 600	短国買入 + 6,000 国債買入 + 4,500 共通担保(全店) + 9,200 CP等買入 + 5,000			
(日本)	日本銀行の対政府取引(8月) マネタリーベースと 日本銀行の取引(8月) 景気動向指数(7月) コール市場残高(8月) 債券市場サーベイ(8月調査)	GDP(4-6月期改定値) 国際収支(7月) 貸出・預金動向(8月) 景気ウォッチャー調査(8月)	マネーストック(8月) 消費動向調査(8月)	機械受注(7月) 企業物価指数(8月) 対外対内証券売買(前週分)	法人企業景気予測調査 (7-9月期) マネタリーサーベイ(7月)
(海外)	米 レーバーデーの祝日	米 労働市場情勢指数(8月) 米 消費者信用残高(7月) 欧 ユーロ圏GDP(改定値)	米 MBA住宅ローン申請指数 (9月4日終了週)	米 輸入物価指数(8月) 米 新規失業保険申請件数 (9月5日終了週)	米 生産者物価指数(8月) 米 ミシガン大学消費者マインド 指数(9月) 米 財政収支(8月) 欧 EU財務相理事会 (12日まで)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.080 ~ 0.120
SPOT 2M	0.118 ~ 0.125
SPOT 3M	0.118 ~ 0.135
SPOT 6M	0.130 ~ 0.150

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初231兆4,300億円から始まった。月明け以降は税揚げ等財政減少要因を受けつつも短国・国債買入を主因に233兆円台まで増加して越週した。31日の無担保コールON物の加重平均金利は、レポGCレート低下の影響を受け弱含み0.071%となった。1日以降は0.076~0.077%のレンジで安定的に推移した。ターム物は、1~2W物で0.11%台後半の出合いが見られた。日経平均株価は4日、8月米雇用統計の発表を夜に控え、円高を背景に輸出関連株を中心に売られ、終値が1万7,792円16銭と2月10日以来約7か月ぶりの安値水準をつけた。来週の材料としては、国内では7日の債券市場サーベイ、海外では8日のユーロ圏GDP(4~6月期)などが挙げられる。

【オープン市場】

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.070 ~ 0.090
TDB 3M	△0.010 ~ 0.005
現先(on/1w)	0.060 ~ 0.100

<CP>

今週の入札発行額は約3,900億円で、期落ち額約4,400億円(金融機関・ABCP除く)と同程度であった。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.080%台後半~0.100%台前半で推移した。全体的に発行量が少なかったため、玉確保ニーズが強く、期内物でも足切は流れなかった。現先レートの中心は、0.060%~0.100%程度で推移した。来週の期落ち額は約9,900億円程度となっている。

<TDB>

3日に国庫短期証券3M555回債の入札が行われたが、最高落札レートは0.0000%(前回債△0.0020%)、平均落札レートは△0.0032%(前回債△0.0056%)となり、前回分から利回りは上昇した。セカンダリー3Mは0.002%近辺での出合い。6M、1Yは目立った出合いは見られなかった。来週は8日に6M、10日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

足許GCは先週に引き続き0.055%~0.065%の出合から始まり、週央までは概ね0.055~0.07%のレンジで推移した。短国3M発行・流動性供給入札となる9/7日受渡にはレートが上昇し0.075%近辺での出合。週末には短国・国債買入オペが1兆500億円オファーされ、0.07%台前半の出合をつけ越週した。SCは10年336・337回債がO/N物・ターム物ともに週を通してネガティブレートで推移した。5年債は123・124回債、10年債は327・328・329・338・339回債、20年債は153回債に引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。